

障害者の避難 リアルに描く

ラジオ脚本 最優秀賞

豊橋市障害者福祉会館「まぐろシアター」＝同市東新町の脚本「障がい者が避難所に来たら」が、独立行政法人防災科学技術研究所の防災コンテストの防災ラジオドラマ部門で最優秀賞に選ばれた。昨年9月の「避難所体験」に参加した障害者や地域住民らが力を合わせて執筆した。仙台市で14日始まった国連防災世界会議の関連行事で表彰された。

豊橋の福祉会館と住民ら



脚本づくりをする「避難所体験」の参加者
＝豊橋市東新町、まぐろシアター提供

同会館は、災害時に障害者や高齢者を受け入れる福祉避難所に指定されており、2009年から毎年9月、障害者や地域住民らを対象に避難所体験を開いている。体育館での宿泊や夜の避難訓練、講演会などを通して障害者自身が防災意識を高めている。その活動が評価され、昨年は「防災まちづくり大賞」の総務大臣賞を受賞した。

ラジオドラマの脚本づくりは、昨年9月の宿泊体験に参加した10～80代の61人が七つの班に分かれて取り組んだ。

未明に震度6の地震が発生したと想定。身体や聴覚、視覚、知的能力などに障害がある人やその家族、介護者、地域住民が一緒にテーブルにつき、「避難所における災害時要配慮者への配慮」をテーマに意見を交わし、一時避難所の受け付けを舞台にしたシナリオをまとめた。

体の不自由な人が高齢の母親のトイレを心配し、避難所で介助者を探す場面、

聴覚障害者が暗い場所で手のひらに文字を書いて会話をしている場面、車椅子の人が避難所に姿を見せないことを心配して探しに行く場面など。当事者ならではの視点に加え、障害者への配慮に不満を漏らす住民や視覚障害者の誘導を申し出る子どもの姿など、避難所に障害者が集まったらどうなるのかをリアルに描いた。

防災コンテストは今回で5回目。「e防災マップ部門」に77団体、「防災ラジオドラマ部門」に36団体が応募し、それぞれで最優秀賞が贈られる。

さくらピア事務長の本田栄子さんは「災害時には避難所に集うすべての人が障害者と関わる可能性がある」と、周囲の協力と援助が欠かせない」といい、「このドラマを通して障害を持つ人・持たない人、支援する人・される人の相互交流が実現した。地域の障害者を地域の避難所に受け入れることができる社会の実現を願いたい」と話す。

脚本は、自主防災会の研修での利用やラジオでの放送などを狙っている。さくらピアやホームページでも閲覧できる。(松永佳伸)

2015年3月15日朝日新聞